

行政視察報告

(文教福祉委員会)

<視察目的>

●地域の医療をどうやって守っていくかということが、全国的に大きな課題となっている。地域の医療を守っていくために、公立病院と民間病院の統合等を含めた今後のあり方について見識を深める必要がある。

そこで、「市立玉野市民病院」と「玉野三井病院」の再編・統合および、地方独立行政法人玉野医療センター設立の状況、そして移転新築された「たまの病院」の現状について伺う。

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
5月22日	岡山県 玉野市	地方独立行政法人 玉野医療センター たまの病院	「市立玉野市民病院」と「玉野三井病院」の再編・統合および、地方独立行政法人玉野医療センター設立の状況、そして移転新築された「たまの病院」の現状について

＜視察概要報告＞

1. 地方独立行政法人玉野医療センター たまの病院（岡山県玉野市）

◆対応部署

岡山県玉野市健康福祉部健康医療課

◆説明概要

1. 「市立玉野市民病院」と「玉野三井病院」の再編・統合の歩みについて
2. 再編・統合のスキームについて
3. 新病院「たまの病院」の建設について

玉野市役所（総合保健福祉センター）で説明を受けたのち、地方独立行政法人玉野医療センター たまの病院の現地視察を行った。

《玉野市役所（総合保健福祉センター）》



《地方独立行政法人玉野医療センター たまの病院》



◆考察

○葉田 茂美委員長

安来市には安来市立病院と民間病院の２病院があり、安来市立病院は公的医療機関として地域医療に重要な役割を担っているが、人口減少、少子高齢化の進展等により経営基盤の弱体化がみられ、これまでの医療提供の維持が困難となっている。一方の民間病院も同じ傾向にあり、民間病院より医療分野の連携（統合を含め）が求められている。このような市立病院を取り巻く環境に対し経営改善と市立病院の今後のあり方、また安来市の民間病院を含めた医療体制を市議会としてどのように考えるのか先進的な取り組み事例を視察研修した。視察先として岡山県玉野市にある地方独立行政法人玉野医療センター「たまの病院」の設立までの過程、現状について行政視察し説明を受けた。

玉野市は地域医療のあり方を考え、市内にある３病院で今後の医療連携に向けた協議がおこなわれたが、それぞれの経営状況、形態などが違うため協議が不調となり、継続協議となった。その後、玉野市新病院基本構想を策定され、市内の２病院の具体的な経営統合に向けた協議が開始された。2020年（令和２年）に正式な経営統合が決定し、地方独立行政法人玉野医療センターを設立。たまの病院（新病院）は2021年（令和３年）４月より基本設計に入り、2025年（令和７年）１月に開院した。事業費は6,896百万円余で、病床数は190床、診療科は内科、外科、小児科などの13診療科目。

研修後、統合し新築移転された「たまの病院（新病院）」の現地視察を行った。

将来の少子高齢化や人口減少、医師不足等の課題に加えて、中長期的な医療需要の減少等へ適切な対応を行い、継続的に地域の医療を担うことができる中核医療機関を整備することを目的として様々な諸課題（雇用の確保、給与制度）を乗り越えて地方独立行政法人の設立、新病院の建設が達成されたこと、玉野市長の病院の再編、統合に寄せる強いリーダーシップ、運営に係る財政基盤が確保されたことが実現に向けた大きな力となったことなど説明を受けた。

安来市には市立病院と民間の経営する二つの病院があり、双方とも経営状況は大変厳しく、早期の経営改善が望まれており、地域の医療体制確保が今後の大きな課題であり早急な対策が必要となっている。安来市においても、玉野市のような先進的な協議となる事を望むものと感じた有意義な行政視察となった。

○永田 巳好委員

玉野市内にある３病院で医療連携に向けた協議がおこなわれたが不調となり、その後市内の２病院での連携に向けた協議がされ、正式に経営統合が決定された。３病院での統合が不調となったのち、市の単独での病院建て替えの方向であったが、前玉野市長が三井造船株式会社の東京本社に行かれて協議を行い、玉野三井病院に絞って連携を再度模索すべきではないかとの考えに至り、玉野三井病院との経営統合を含めた検討に舵が切られて、現在に至る。

首長である玉野市長の考えによって、地方独立行政法人が設立された。首長がどのように考えるかということが重要であると感じた。

○石倉 刻夷委員

玉野市議会事務局の司会進行で進められ、玉野市議会厚生委員会委員長と健康福祉部長より、それぞれ歓迎の挨拶を受け、玉野市健康医療課長並びに係長より詳細な説明を受けた。

地域医療連携推進協議会が2016年（平成28年）4月にスタートし、7回の協議で、2017年（平成29年）2月にまとめられたスピード感に驚いた。その後の新病院在り方検討部会も精力的に開催され、早期に病床規模等が協議されていた。地域医療連携に向けた協議も「目的」が明瞭で、約3ヶ年で、新病院「地方独立行政法人 玉野医療センター」設立となっていた。

質疑の中で、職員の移行、労使交渉、医師数の動向、新築に対する財政問題等があった。事前の質問事項にも、回答いただき有意義な視察であった。2025年（令和7年）4月1日開院した新館を見学し、68億円の巨費を投じた。新病院が市民の為に健全運営されることを希う。

○向田 聡委員

人口減少が今後も続く中で、どう地域の医療体制を持続可能な形で維持していけるかという課題は、いま日本のどこの地域でも共通の課題となっている。安来市でも、住民が安心して医療を受けられる病院の在り方について検討がなされているが、今回の玉野市での、公立病院と民間病院の統合再編は、参考になるところも多々あった。

2025年（令和7年）1月に新病院「たまの病院」として正式にスタートされえたが、それに至るまでの協議が、2016年度（平成28年度）に玉野市地域医療連携推進協議会という形でスタートしており、約9年間の期間かけて行われており、実際に形になるにはそれなりの期間が必要だということが分かった。

公立と民間との統合であるので、まず経営形態をどうするかという課題があったと思うが、玉野市では、経営基盤を強化して地域医療の維持を図るために、地方独立行政法人という形態をとられた。民間の「玉野三井病院」が黒字経営だったということや企業から病院を手放したいという思いもあり、協議も前向きだったように感じられたが、本市安来市での病院の再編となると、スムーズにいくのかどうか不安に思うところもある。

違う病院が統合されるということで、職員の雇用や意識の違い・融和がどうなっているのか気になるところもあり質問もあったわけだが、雇用の面については、全員雇用することでスタートしたと言われたが、意識改革については、まだまだ意識の違いがあり、融和にも時間がかかるというような返答だった。生身の人間がかかわることであるので、そうすんわりはいかないだろうという印象を受けた。統合再編によって今まで医療現場で地域医療を支えていた職員が辞めていくようなことにはならないような雇用維持ということもしっかり考えた統合にしていかなければならないと感じた。

○原瀬 清正委員

安来市の持続可能な医療提供体制構築のため、安来市立病院の今後の在り方について抜本的な対応が避けられない状況にあることから、市立病院と民間病院の再編・統合を実行された岡山県の地方独立行政法人・玉野医療センター「たまの病院」を訪問し、統合の経緯や新病院の概要についてお話を伺った。

再編・統合の経過を伺い、担当者の方は並々ならぬご苦勞をされたことは間違いないが、「職員の意識改革が一番難しかった」とのお話を聞き、良い医療提供体制の構築と設備が整った良い病院が出来ても、そこで働く人がうまく機能しなければただの箱モノになりかねないと思った。また、新病院（たまの病院）の院内も案内いただき、安来市立病院の老朽化を含め、速やかに問題解消する手立てを進める必要があると改めて思った。